

2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日
承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
 例会場 勝山市市民交流センター
 〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地
 TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760
 URL : <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>
 Email:katsuyamarc@gmail.com
 ■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子
 編集発行・文責 公共イメージ委員会

会長メッセージ

～ 縁（えにし）
を継なぐ ～



第3109回 例会 (1月20日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



今月ロータリーでは「職業奉仕月間」の月です。

私たちロータリークラブには、職業を通じて社会に奉仕する、という大切な考えがあります。

日々それぞれが仕事に向き合いながら、その仕事が社会に役に立っているか、誰かのためになっているかを改めて見つめ直す月でもあります。

その際、私たちロータリアンには明確な指針があります。「四つのテスト」です。

四つのテストは例会セレモニーで必ず読み上げていますが、実は判断に迷った時や立ち止まった時にこそ思い出したい、私たちの拠り所と感じています。

中でも私が特に心に留めているのが、最後の「みんなのためになるかどうか」という一文です。

自分にとってどうか、自社にとってどうかという視点に立ちがちな今の時代において、「みんなのためになるかどうか」と一度立ち止まって考えることは、職業奉仕の原点そのものではないでしょうか。

私はこの一文こそが今の時代を生き抜くためのとてもシンプルで力強い言葉だと考えます。

職業奉仕月間である今月、あらためて四つのテストを胸に、それぞれの職業の現場でロータリアンらしい判断と行動を積み重ねていければよいと思います。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○1月理事会報告を配布しましたのでご確認ください。
 ○地区大会の出欠について来週の例会までにお返事をお願いします。

○次年度のガバナー公式訪問の日程が決定しました。

2026年9月9日（水）

○例会終了後、理事役員会を開催します。

◆到着物

○台北国際大会の案内

●出席報告

山内 智子

1月20日	欠席3名	85.71%
1月13日	欠席4名	70.83%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

会員誕生	鷲田政憲
伴侶誕生	鷲田政憲・中道直司・斎藤清一郎
届出欠席	山本泰司



会員のコーナー

小林達治会員

個性豊かなみかん

産地が違う2種類のみかんを食べ比べる機会がありました。

愛媛県産の「紅マドンナ」と和歌山県産の「有田みかん」です。

紅マドンナは兎に角甘く、カタカナの名前のおり派手な印象。漢字で書けば蜜柑そのもの。

有田みかんは甘みも有りますが酸味もしっかりあり、昔ながらの美味しいみかん。旨みが長続きます。

漢字で書けば味柑でしょうか。

有田みかんの農家さんからは

「収穫は終わっていますが、酸味が抜けていません。出荷出来るようになるまで今しばらく」とメールが来ていました。

一言で「みかん」といっても産地によってさまざまですね。

どちらが好みかと問われると、相撲でいえば「両横綱四つに組んで、両者十分」優劣つけられません。



有田みかん

VS

本日 プログラム	ゲスト卓話 福井財務事務所	2月3日 プログラム	クラブ協議会	2月10日 プログラム	会員卓話	2月17日 プログラム	ゲスト卓話 勝山市観光まちづくり財団 今井三偉氏
-------------	------------------	---------------	--------	----------------	------	----------------	--------------------------------

ゲスト卓話

福井銀行グループのウェルビーイング経営

福井銀行勝山支店長 海崎 順一 氏



皆さん、こんにちは。福井銀行勝山支店の海崎でございます。今日は、伝統あるロータリークラブ様の例会にお招きいただき、心より感謝申し上げます。

今年度のロータリークラブ様のテーマは「縁をつなぐ」そしてプログラム委員会様のテーマは「人生100年時代をどう生きるか」だと伺っております。

私たち銀行員は、普段はお金や数字を扱う仕事をしておりますが、この「人生をどう豊かに生きるか」という問いは、実は今の私たち福井銀行にとっても、最も重要なテーマの一つとなっております。

今日はそのキーワードである「ウェルビーイング」について、私たちが組織として、そして一人の人間としてどのように向き合っているかをご紹介します。

【ウェルビーイングとは】

最近よく耳にする「ウェルビーイング」という言葉、皆さんはどのように捉えていますか？

これは単に「体が健康である」ということだけではありません。身体的、精神的、そして社会的にも満たされ、その良い状態が「持続している」ことを指します。一人ひとりの価値観によって「何が幸せか」は異なります。だからこそ、画一的な答えがあるわけではなく、自分なりの「満たされた状態」を見つけることが、人生100年時代を歩む鍵になると私たちは考えています。

【福井銀行のミッションとウェルビーイング】

福井銀行の企業理念は「地域産業の育成・発展」と「地域に暮らす人々の豊かな生活の実現」です。

これまでは、預金や融資といった「金融商品を売る」ことが仕事の中心でした。

しかし、これからの私たちは「地域の課題解決」へと進化しなければならないと考えています。

お客様の懐に深く入り込み、圧倒的な当事者意識を持って伴走する。それによって地域に新しい価値が生まれ、その価値がまた次のチャレンジを呼ぶ。そんな「地域価値循環モデル」を目指しています。

しかし、ここで一つの大きな気づきがありました。お客様に最高の伴走支援をするためには、まず「伴走する側の行員自身」が満たされていなければならないということです。自分自身がウェルビーイングな状態でなければ、本当の意味でお客様を幸せにすることなどできません。だからこそ、私たちは「ウェルビーイング」を経営の根幹に据えることにしたのです。

私たちは、ウェルビーイングを以下の4つの要素で捉えています。

理念・方針： 行員一人一人が銀行の存在意義に共感していること。

組織・風土： 心理的安全性が高く、失敗を恐れずチャレンジできる環境。

環境・処遇： 納得性の高い処遇を実現するための取り組み。

意欲・成長： 自分の成長を実感し、働きがいを感じる。

これらを実現するために、具体的なアクションを起しています。

例えば、頭取が自ら行員の「モヤモヤ」に答える動画配信「はせチャンネル」や、上司と部下が本音で話

す「1on1ミーティング」、さらには行員同士で良いところを褒め合う「褒めらLetter」の仕組み。これらはすべて、風通しの良い、前向きな組織を作るための挑戦です。

数ある取り組みの中で、私が最も大切だと思っているのが「考え方」です。京セラの稲盛和夫氏が提唱された「人生の方程式」をご存知の方も多いでしょう。

人生の結果

= 考え方 (-100~100) × 熱意 (0~100) × 能力 (0~100)

この方程式の恐ろしいところは、掛け算であるという点です。熱意や能力がどれだけ高くても、「考え方」が後ろ向きでマイナスであれば、結果も大きなマイナスになってしまいます。

私たちは、行員が現状に安住する「安心の領域」から一步踏み出し、たとえ不安であっても学び、成長する「成長の領域」でウェルビーイングを感じられるような集団でありたいと願っています。



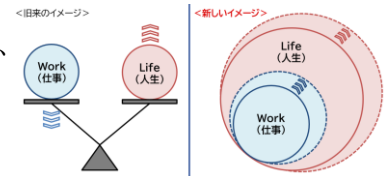
【仕事の意味づけ】

よく「ワークライフバランス」という言葉を使いますが、これは仕事と生活を天秤にかける考え方です。仕事が増えれば生活が犠牲になる、というイメージです。

しかし、私たちは「ワークインライフ」という考え方を提唱しています。

人生という大きな器の中に、仕事が含まれているという捉え方です。仕事が充実すれば、人生そのものも豊かになる。逆に人生が充実していれば、仕事にも良い影響が出る。この二つを切り離すのではなく、融合させて捉えることで、日々の仕事に新しい意味が生まれます。

イソップ寓話の「3人のレンガ職人」の話にあるように、「ただレンガを積んでいる」と思うか、「大聖堂を造っている」と思うか。この「意味づけの力」こそが、モチベーションと幸福度を分ける決定的な差になります。



【ウェルビーイングから目指すミッションの実現】

福井銀行は、2032年までに「4つの100」を達成するという長期ビジョンを掲げています。

1. ウェルビーイングを実感する職員の比率を100%にする。
2. 福井県民の所得を100万円増やす。
3. 福井の活力人口を100万人にする。
4. グループ純利益を100億円にする。

起点は、私たち一人ひとりのウェルビーイングです。私たちが生き生きと働き、地域の皆様に全力で伴走することで、福井をもっと良くしていきたい。この想いは、企業だけでなく、今日お集まりの皆様的人生や組織にも通じるものがあるのではないでしょうか。

最後になりますが、もし皆様の会社でも「社員のエンゲージメントを高めたい」「ウェルビーイングな組織を作りたい」というご関心がありましたら、私どもで診断サービス等のお手伝いもさせていただきます。人生100年時代、今日お集まりの皆様との「縁」を大切に、共に豊かな福井を作っていければ幸いです。